

日本と世界の交流の架け橋に！ ～2015 新規 JET プログラム参加者出発前セミナーの開催～

ニューヨーク事務所

2015 年 6 月 27 日(土)、ニューヨークから日本に向けて旅立つ新規 JET プログラム参加者をサポートするセミナーが、ニューヨーク市内の日本クラブで開催されたので、その様子を報告します。

1. 概要

このセミナーは、在ニューヨーク日本国総領事館と当事務所が共催で毎年開催しています。新規 JET プログラム参加者（以下、「新規参加者」という。）のうち、ニューヨークから出発する者を対象としており、今年は 55 名が参加しました。

当日は、JET プログラム同窓会ニューヨーク支部（以下、「JETAANY」という。）のプレジデントである Pamela Kavalam 氏、在ニューヨーク日本国総領事館広報センターの相(あい)センター長及び当事務所の立田所長による挨拶の後、日本での仕事や生活に係るオリエンテーションやワークショップが開催されました。



緊張する参加者に対し、アイスブレイクを行う Pamela Kavalam 氏

2. JETAANY による基調講演及びワークショップ

当セミナーの開催は、JETAANY のメンバーによる尽力なしでは成り立ちません。今回も、Pamela Kavalam 氏を始めとし、約 20 名がこのセミナーの運営に携わってくれており、新規参加者にとって、彼らの話や彼らとの交流は全て非常に有意義なものであったことは間違いありません。

はじめに、2007 年から 2009 年まで岐阜県で ALT として働いた O' Dea Evan 氏による基調講演が行われました。彼は、自身の経験を元に、日本での生活には、仕事場だけでなくレストランでの食事時や交通機関(特にバス！とのこと。)利用時などどの場面にも多様な困難があると話し、それによるフラス



熱心に JET 経験者の話を聞く参加者たち

トレーションが溜まることもあるとした上で、様々なコミュニティに所属することで、人との繋がりを持つことができ、それにより楽しんだり安心感を得ることもできると続けました。そして最後に、「Be yourself!!」と述べ、JET であることに自信を持って、たくさんさんの経験を積んで欲しいと新規参加者を力強く激励しました。

その後、3名の JETAANY メンバーが、ALT として働くことについてのワークショップを行いました。

小学校で ALT として働いていたメンバーからは、クラス担任の教師や生徒との関わり方についてのアドバイスがなされました。クラス担当の日本人教師について、英語に自信のある人は少ないこと、彼らは多忙であるため率先して ALT 自身が授業準備をするよう心がけること、また彼らは受け持つ生徒のことを一番良く知る人物であるため、接し方に迷うことがあれば助言を受けるように、と説明がありました。実際現場に行き同僚や上司から言われるのではなく、まだ新規参加者の気持ちに余裕のある今、既に現場を目の当たりにしてきた先輩である元 ALT からこのような助言を受けることは、非常に重要であると感じました。

また、小学校、中学校、そして高校のどの学校にも共通して話されたアドバイスは、生徒や学校職員の名前をなるべく早く覚えること、でした。これはどのコミュニティにおいても大切なことですが、学校現場において、特に対生徒については、名前がとても大切なコミュニケーションツールです。筆者自身が学生の頃、ALT の方にファーストネームと呼ばれた時にとても嬉しかったという思い出を今でも覚えています。

各メンバーからの説明後、新規参加者からは、生徒とどんなゲームで遊んでいたか、どんな名前と呼ばれていたか、日本語は話してもいいのかなど、より具体的な質問が挙がりました。そして、日本へのお土産は何を持って行けば良いか、という毎年新規参加者の間で話題になるという質問に対しては、アメリカでは定番のお菓子でも美味しくないとされたことがあるので、東京バナナのような甘すぎないものがないかなどの回答があり、新規参加者の笑いを誘っていました。

引き続き行われた、日本で暮らす上での礼儀作法についてのワークショップでは、「本音と建前」や日本人が重んじる「調和」など日本の精神的な背景の説明から、出勤から退勤までの会話、食事時の挨拶、相槌など日常生活の中で使用頻度の高い日本語のフレーズを、一同起立し発声練習するという実用的なものまで、熱気溢れる講義が繰り広げられました。



ワークショップの様子



日本語の挨拶を参加者全員で練習

3. 10のテーマでグループディスカッション

午後からは、日本での生活における10の関心事をテーマにしたもののうち、新規参加者が知りたいテーマを3つまで選択し参加するというディスカッションが開催されました。農村部、郊外そして都市部と、暮らす地域に応じてそれぞれの暮らしについて話し合うグループから、人種やLGBT¹などに関するマイノリティをテーマにしたグループ、ベジタリアンを取り上げるグループまで多種多様なディスカッションが行われました。

筆者は、東京都派遣である当事務所の立田所長及び東京在住経験を持つ

JETAANYメンバーが説明を行う、東京での暮らしをテーマにした「Living in Tokyo」に参加しました。東京都では、今年新たに私立学校におけるALT採用があったことから、都立・市立学校勤務のグループ(10名(市立1名))に対し2回、私立学校勤務のグループ(3名)に対し1回の計3回に分けて、合計13名に説明を行いました。JETAANYメンバーからは、自身の経験を踏まえ、電車やバスなどの交通機関や医療サービス、買い物などの情報について、立田所長からは、住宅のあっせんや勤務に関する事務的なことや生活上の注意点について、それぞれ説明がなされ、新規参加者たちは熱心に聞き入っていました。

4. 新規参加者への期待

今回、筆者の派遣元である和歌山県の日高郡日高川町において、2010年から2年間ALTとしてJETプログラムに参加し、現在JETAANYに所属しているDaniel Porter氏とお会いすることができました。カメラが趣味の彼は、ALT時代に撮影したたくさんの写真を筆者に見せながら、嬉しそうに思い出を語ってくれました。彼が語る和歌山は、筆者が知る以上に魅力的な場所でした。筆者が育った故郷についてこのように思い入れを持つ



“Living in Tokyo” ブース



カメラマンとして一日手伝ってくださったJETAANYのDaniel Porter氏(左)と筆者(右)

¹LGBTとは、L=レズビアン(女性同性愛者)、G=ゲイ(男性同性愛者)、B=バイセクシュアル(両性愛者)、T=トランスジェンダー(生まれたときに、法律的/社会的に割り当てられた性別にとらわれない性別のあり方を持つ人)

→NHKのLGBT特設サイト「虹色」(<http://www.nhk.or.jp/heart-net/lgbt/index.html>)参照

てくれ、和歌山を知らない人たちにも魅力的に話してくれる彼のような人がいるのだということを見ると、JET プログラムは単なる交流事業でないと改めて感じました。

7月25日(A日程)又は8月1日(B日程)にニューヨークを発ち、日本各地に赴任する今回の新規参加者たちも、日本でたくさんの知識と経験を吸収し交流を深めた後、Porter 氏のように日本と世界をつなぐ架け橋になってくれることでしょう。彼らの今後の活躍を期待しつつ、ひとまずこのセミナーが、彼らの日本での生活がスムーズにスタートする一助になったであろうと、セミナー終了後の彼らの笑顔を見て感じました。



協力して下さった JETAANY メンバーたち

(丸野所長補佐 和歌山県派遣)

CLAIR